

教えて!

vol.69

市立病院

テーマ

乳癌の早期診断・
早期治療のために

今月のドクター

乳腺外科部長
橋本 敏夫 医師



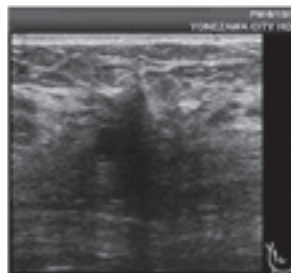
乳癌は増加傾向にあり、女性の癌において罹患率1位、死亡率5位となっています。罹患のピークは40代後半から50代後半にあります。

当院では平成26年4月に断層撮影の可能な乳房撮影装置に更新しました。従来の装置と比較して、低被ばく（最大30%の線量低減）、高画質を実現し、通常の検診・診断用の撮影、乳房断層撮影検査に対応しています。この装置に吸引補助下バイオプシー装置を組み合わせることで、石灰化病変や小さい腫瘍性病変の精密診断ができます。

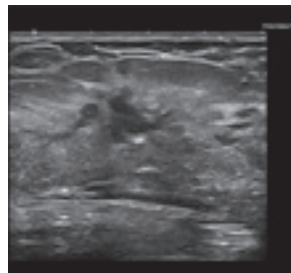
昨年8月、更新前より高性能な超音波診断装置を導入しました。この装置は、右の画像に示すように精密な超音波診断が可能で、早期の診断・治療による乳房温存手術の割合が増加傾向にあります。

腋窩リンパ節えきかに関しては、センチネルリンパ節（最初にリンパ節転移を認める見張りリンパ節）のみ切除施行し、センチネルリンパ節に転移が認められな

ければ、他のリンパ節は温存して不必要なリンパ節かくせい廓清を省略することで、上肢のリンパ浮腫の発生を予防しています。術後の補助療法は、それぞれの腫瘍の特性を検討し、乳癌学会、St.Gallen ザンクトガレン 又はNCCNのガイドラインに沿った標準的治療を行います。地域の皆さんの期待にお応えできるよう、診療レベルの更なる向上のため日々努力してまいります。



以前の超音波画像所見



同じ病変の画像所見（更新後）

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450